

運行管理者 貨物編

暗記ノート05

(実務上の知識及び能力)

PDFデータの販売・再配布等は認めておりません。
公開されているPDFデータは事前に断りなく移動、修正、公開停止などの措置をとる場合があります。
本文の内容は2024年7月時点の法令によって制作しています。

(制作 2024.7)

運転者の健康管理

脳血管疾患	<ul style="list-style-type: none">・ 早期発見、早期治療で症状が【重い】疾患の発症を防ぐことができる ⇒ 脳血管疾患の初期症状を【理解】させ、症状があった際はすぐに【申告】させる・ 定期健康診断では【容易】に発見することができない ⇒ 異常の所見があると診断された者に【精密検査】等を受けるよう指導する
睡眠時無呼吸症候群 (SAS)	<ul style="list-style-type: none">・ 狭心症、心筋梗塞等の【合併症】を引き起こすおそれがある ⇒ 【スクリーニング】検査等を行い、早期治療を受けさせる
アルコール依存症	<ul style="list-style-type: none">・ 回復しても再び依存症に陥るケースが【多い】 ⇒ 飲酒に関する指導を行う
健康診断	<ul style="list-style-type: none">・ 深夜を中心とした業務に常時従事する運転者 ⇒ 【6】ヵ月に【1】回受診させる

交通事故等緊急時の措置

<p>交通事故を起こした場合の措置</p>	<p>①事故の続発防止のため、安全な場所に自動車を止め、【エンジンを切る】</p> <p>②負傷者等がいる場合、救急車の出動要請、救急車の到着まで【応急処置】を行う</p> <p>③【発煙筒】や【停止表示器材】等で他車に事故の発生を知らせる</p> <p>④警察署に事故発生【報告】をし、【指示】を受ける</p> <p>⑤報告した警察官から事故現場を離れないよう指示があった場合は、事故現場を【離れて】はならない</p>
<p>踏切内で自動車が故障し動かなくなったときの措置</p>	<p>①【直ちに】列車の運転士などに【知らせ】、自動車を踏切の【外】に移動することに努める</p> <p>[運転士に知らせる方法]</p> <p>◎警報機がある踏切…【踏切支障報知装置】(踏切非常ボタン)を使用</p> <p>◎踏切支障報知装置がない踏切…【非常信号用具等】を使用</p>
<p>高速道路における事故又は故障時の措置</p>	<p>①急ブレーキをかけずに緩やかに減速し、【路肩】や【非常駐車帯】に停車</p> <p>②停車後は、【発炎筒】や【停止表示板】で後続車に事故車や故障車の存在を知らせる</p> <p>③非常電話を使用し、【事故】・【故障状況】を通報する</p> <p>④運転者と同乗者は通行車両に注意しながら車を降り、ガードレールの【外側】など安全な場所に【避難】する</p>
<p>自動車の運転中に大地震が発生した場合の措置</p>	<p>①できるだけ安全な方法により道路の【左側】に自動車を停止させる</p> <p>②自動車の停止後、カーラジオ等により地震情報や交通情報を聞き、その情報や周囲の状況に応じて【行動】する</p> <p>③自動車を置いて避難するときは、できるだけ【道路外】の場所に移動する</p> <p>④やむを得ず道路上に自動車を置いて避難するときは、</p> <p>◎道路の【左側】に寄せて駐車</p> <p>◎エンジンを【止め】、エンジンキーは【付けたまま】にする</p> <p>◎窓を【閉め】、ドアはロック【しない】</p> <p>◎貴重品は【車内】に残さない</p>

交通事故防止

ドライブレコーダー	交通事故などにより自動車が一以上の【 衝撃 】を受けると、衝突前と後の前後【 10 】秒ほどの映像を自動的に保存する装置。
車線逸脱警報装置	走行車線を【 認識 】し、車線から逸脱した場合あるいは逸脱しそうになった場合には、運転者が【 車線中央 】に戻す操作をするよう警報が作動する。
衝突被害 軽減ブレーキ	走行中、常にレーダーが前方の状況を監視し、前方の障害物等に衝突しそうになると音声などで警告が発せられ、衝突が避けられなくなった時点で【 自動的 】にブレーキを掛けて被害の【 軽減 】を図るシステム。
ふらつき 注意喚起装置	運転者の【 低覚醒 】状態や【 低覚醒 】状態に起因する挙動を検知し、運転者に【 注意 】を喚起する。
車両安定性制御装置	【 横転 】の危険を、警報音などにより運転者に知らせるとともに、【 エンジン出力 】や【 ブレーキ力 】を制御し、【 横転 】の危険を軽減させる。
デジタル式 運行記録計	瞬間速度、運行距離、運行時間に加え、急発進、急ブレーキなどの広範な運行データを【 デジタル化 】して【 ハードディスク 】などに記録できる。各種運行データのデジタル化により、解析作業が素早く、正確に処理されるため、事故防止、運行管理、燃費管理、労務管理等への幅広いデータ活用が可能。
ヒヤリ・ハット	運転者が運転中に他の自動車等と【 衝突 】、または接触するおそれがあったと【 認識 】することをいう。事故に至る事例の背景には、それよりはるかに多数のヒヤリ・ハット事例が潜んでいる。
ハイน์リッヒの法則	【 1 】件の重大災害が起こる背景には【 29 】件の軽傷事故と【 300 】件のヒヤリ・ハットがある。
適性診断	運転者の安全意識を向上させ、ヒューマンエラーによる事故の発生を【 未然に防止 】するための手段。
指差呼称	運転者の意識レベルを【 高め 】、運転者の錯覚や誤判断、誤操作等を【 防止する 】ための手段。

視野等

運転席の高さ、視野※	大型車の場合は車間距離に【 余裕がある 】ように感じる。 乗用車の場合は大型車の場合と反対に【 余裕がない 】ように感じる。
四輪輪から見た二輪車	二輪車は、実際の速度より【 遅く 】感じたり、距離が実際より【 遠く 】感じたりする。
蒸発現象	夜間に走行中、自車と対向車のライトで、【 道路中央 】付近の歩行者が【 見えにくく 】なる現象。
内輪差	ホイールベースの長い【 大型車 】ほど内輪差が【 大きい 】ため、左折時には歩行者や自転車等との事故に注意する。

※前方の自動車を大型車と乗用車から同じ距離でみた場合。

走行時に働く力

カーブ走行時の遠心力	重量及び速度が同じ場合 ・カーブの半径が【 2分の1 】⇒遠心力は【 2倍 】 ・カーブの半径が【 2倍 】⇒遠心力は【 2分の1倍 】
慣性力、遠心力、衝撃力	速度の二乗に【 比例 】
追越し	前車と速度差が【 小さい 】ほど、追越しに【 長い時間 】と【 距離 】が必要になる

自動車に生じる諸現象

ウエットスキッド現象	雨の降り始めの、タイヤと路面の間の滑りによる自動車の【 スリップ 】など。
ハイドロプレーニング現象	道路の水たまりなどの上を高速走行したときに、タイヤが水の上を【 滑走 】すること。
フェード現象	ブレーキシステムの過熱により摩擦力が【 減り 】、ブレーキの効きが悪くなること。
ペーパー・ロック現象	ブレーキシステムの過熱によりブレーキ液に【 気泡 】が生じ、ブレーキの効きが悪くなること。

計算問題のポイント

速度	$\frac{【距離】}{【時間】}$	時間	$\frac{【距離】}{【速度】}$	距離	$【速度】 \times 【時間】$
時間⇒分	$【時間】 \times 【60分】$	分⇒時間	$\frac{【分】}{【60分】}$	時速 A km/h ⇒秒速 m/s	$\frac{\text{A} \times 【1000m】}{【3600s】}$
停止距離	$【空走距離】 + 【制動距離】$		燃料消費率	$\frac{【走行距離】}{【燃料消費量】}$	